

勉誠社

俳文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: c7727e0c8b
(期限: ~2023年11月末日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:c7727e0c8b 期限:~2023年11月末日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス（※ 海外への配送に関しては、実費を頂戴します）

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
俳文学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価 (税込)	割引価格 (税込)	注文数
重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010	24,200	19,400	
日本人の読書―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033	13,200	10,600	
日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018	16,500	13,200	
中国古典をどう読むか―規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027	4,180	3,300	
江戸時代の貸本屋 ―庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029	5,500	4,400	
軻川図と蘭亭曲水図―イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009	10,450	8,400	
江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029	35,200	28,200	
俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・舘野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025	16,500	13,200	
深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 ―近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013	22,000	17,600	
黄泉の国との契約書―東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030	4,180	3,300	
近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022	11,000	8,800	
伝承と現代―民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004	8,800	7,000	
鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	舘隆志 著	2023/02	31014	14,850	11,900	
フェイク・スペクトラム―文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015	3,520	2,800	
日本古典文学を世界にひらく ―EAJS（ヨーロッパ日本研究協会）で発表しよう	横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー 編	2022/12	39014	4,950	4,000	
もやもや日本近代美術―境界を揺るがす視覚イメージ	増野恵子・安松みゆき・河田明久・志邨匠子・瀧井直子・奥間政作・石井香絵 編	2022/12	37004	5,280	4,200	
日本近世中期上方学芸史研究―漢籍の読書	稲田篤信 著	2022/11	39013	9,900	7,900	
伝達と変容の日本建築史―伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001	3,850	3,100	
中世神道入門―カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	31006	4,180	3,300	
ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ	近本謙介 編	2022/03	31009	13,200	10,600	
宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008	16,500	13,200	
奈良絵本『太平記』の世界 ―永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	39007	55,000	44,000	
飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	39006	12,100	9,700	
コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本麿充 編	2022/01	37000	10,450	8,400	
合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013	17,600	14,100	
もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	Jul-21	39001	2,640	2,100	
創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	Jun-21	31002	8,800	7,000	
書物・印刷・本屋―日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	Jun-21	30002	17,600	14,100	
パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦	菅豊・北條勝貴 編	May-21	82254	5,280	4,200	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	Feb-21	22301	9,900	7,900	
増補改訂新版 日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	Feb-21	22280	4,180	3,300	
明治の一発屋芸人たち―珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/01	27058	3,850	3,100	
中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	20077	16,500	13,200	
江戸庶民のまじない集覧 創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	20076	6,600	5,300	
儒教儀礼と近世日本社会 閻斎学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/07	21056	11,000	8,800	
日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/03	20073	7,700	6,200	
幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/02	29196	11,000	8,800	
近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス 編	2020/02	22267	7,700	6,200	
日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/02	22266	6,600	5,300	
近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容 北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/02	22265	11,000	8,800	
明治の教養―変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/01	29193	8,250	6,600	
近世武家社会と連歌	綿拔豊昭 著	2019/10	29190	10,450	8,400	
古典文学の常識を疑う II 縦・横・斜めから書きかえる文学史	松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘 編	2019/09	29183	3,080	2,500	
源氏物語の近世 俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典	レベッカ・クレメンツ／新美哲彦 編	2019/08	29186	13,200	10,600	
書籍文化史料論	鈴木俊幸 著	2019/05	22240	11,000	8,800	
由緒・偽文書と地域社会 北河内を中心に	馬部隆弘 著	2019/02	22231	12,100	9,700	
和歌を読み解く 和歌を伝える ―堂上の古典学と古今伝受	海野圭介 著	2019/02	29176	12,100	9,700	
輪切りの江戸文化史―この一年に何が起こったか？	鈴木健一 編	2018/10	22220	3,520	2,800	
変革期の社会と九条兼実―『玉葉』をひらく	小原仁 編	2018/10	22217	11,000	8,800	
文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク	飯倉洋一・盛田帝子 編	2018/06	29166	8,800	7,000	
江戸時代生活文化事典―重宝記が伝える江戸の知恵	長友千代治 編著	2018/02	20062	30,800	24,600	
近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会	工藤航平 著	2017/11	22200	11,000	8,800	
江戸の異性装者たち セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2017/11	22198	3,520	2,800	
出版文化のなかの浮世絵	鈴木俊幸 編	2017/10	27042	4,180	3,300	
江戸庶民の読書と学び	長友千代治 著	2017/10	22193	5,280	4,200	
夢の日本史	酒井紀美 著	2017/06	22177	3,080	2,500	
連歌史 中世日本をつないだ歌と人びと	奥田勲 著	2017/04	29135	3,850	3,100	
深草元政『草山集』を読む―近世初期学僧のことばと心	元政庵瑞光寺 川口智康 編	2017/03	21040	5,280	4,200	
鋤形蕙斎画 近世職人尽絵詞―江戸の職人と風俗を読み解く	大高洋司・大久保純一・小島道裕 編	2017/02	27038	16,500	13,200	
近世日本の歴史叙述と対外意識	井上泰至 編	2016/06	22152	8,800	7,000	

幕末明治 移行期の思想と文化	前田雅之・青山英正・上原麻有子 編	2016/05	29125	8,800	7,000	
形成される教養 十七世紀日本の〈知〉	鈴木健一 編	2015/11	29110	7,700	6,200	
秋里籬島と近世中後期の上方出版界	藤川玲満 著	2014/11	22107	9,350	7,500	
元禄・正徳 板元別出版書総覧	市古夏生 編	2014/11	22102	16,500	13,200	
日本近世都市の文書と記憶	渡辺浩一 著	2014/09	22094	9,900	7,900	
近世・近代初期 書籍研究文献目録	鈴木俊幸 編	2014/09	22092	8,800	7,000	
公卿補任図解総覧口	所功 監修／坂田桂一 著	2014/03	22074	10,780	8,600	
江浸透する教養 戸の出版文化という回路	鈴木健一 編	2013/11	29061	7,700	6,200	
一条兼良の学問と室町文化	田村航 著	2013/03	22048	10,450	8,400	
書籍流通史料論 序説	鈴木俊幸 著	2012/06	22024	11,000	8,800	
江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・柳沢昌紀・和田恭幸 編	2011/03	10452	27,500	22,000	
アジア遊学						
288 東アジアの「孝」の文化史 ―前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雋雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534	3,520	2,800	
287 書物の時代の宗教―日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曽根原理 編	2023/09	32533	3,080	2,500	
285 渾沌と革新の明治文化 ―文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531	3,080	2,500	
284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530	2,800	2,200	
283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529	3,520	2,800	
282 列島の中世地下文書―諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528	3,300	2,600	
281 神道の近代―アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527	3,520	2,800	
280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526	3,300	2,600	
279 上海フランス租界への招待―日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525	3,520	2,800	
278 呪術と学術の東アジア―陰陽道研究の継承と展望	陰陽道史研究会 編	2022/12	32524	3,300	2,600	
277 宋代とは何か―最前線の研究が描き出す新たな歴史像	平田茂樹・山口智哉・小林隆道・梅村尚樹 編	2022/11	32523	3,520	2,800	
276 村と民衆の戦国時代史―藤木久志の歴史学	稲葉継陽・清水克行 編	2022/10	32522	3,300	2,600	
275 「唐物」とは何か―舶載品をめぐる文化形成と交流	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520	3,080	2,500	
274 呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家	瀧朝子 編	2022/10	32521	3,520	2,800	
265 宗教芸能としての能楽	高橋悠介 編	2022/01	32511	3,300	2,600	
263 室町前期の文化・社会・宗教―『三国伝記』を読みとく	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	32509	3,080	2,500	
書物学						
書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり ―近代日本の製本技術	編集部 編	2023/08	30723	2,200	1,800	
書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ ―香雪美術館書画コレクションを支える装幀修理の世界	編集部 編	2023/04	30724	1,980	1,600	
書物学 第22巻 禅寺の学問―相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722	1,980	1,600	
書物学 第21巻 活字―近代日本を支えた小さな巨人たち	編集部 編	2022/12	30721	1,980	1,600	
書物学 第20巻 追憶のサムライ―中世武士のイメージとリアル	横浜市歴史博物館 編	2022/10	30720	1,980	1,600	
書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍	編集部 編	2022/02	30719	1,980	1,600	
書物学 第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/07	20717	1,980	1,600	
書物学 第17巻 編集文献学への誘い	編集部 編	2019/09	20717	1,650	1,300	
書物学 第16巻 特殊文庫をひらく 古典籍がつなぐ過去と未来	編集部 編	2019/07	20716	1,650	1,300	
書物学 第15巻 金属活字と近代	編集部 編	2019/04	20715	1,650	1,300	
書物学 第14巻 贋作・偽作	編集部 編	2018/12	20714	1,650	1,300	
書物学 第13巻 学問の家の書物と伝授	編集部 編	2018/08	20713	1,650	1,300	
書物学 第11巻 語りかける洋古書	編集部 編	2017/08	20711	1,650	1,300	
書物学 第9巻 江戸の欲望／江戸という欲望	編集部 編	2016/10	20709	1,650	1,300	
書物学 第8巻 国宝 称名寺聖教／金沢文庫文書	編集部 編	2016/08	20708	1,650	1,300	
書物学 第7巻 医書の世界	編集部 編	2016/03	20707	1,650	1,300	
書物学 第6巻 「書」が語る日本文化	編集部 編	2015/11	20706	1,650	1,300	
書物学 第5巻 洋古書の愉悅	編集部 編	2015/07	20705	1,650	1,300	
書物学 第4巻 出版文化と江戸の教養	編集部 編	2015/02	20704	1,650	1,300	
書物学 第3巻 書物とエロス	編集部 編	2014/08	20703	1,650	1,300	
書物学 第2巻 書物古今東西	編集部 編	2014/05	20702	1,650	1,300	
書物学 第1巻 書物学こと始め	編集部 編	2014/03	20701	1,650	1,300	

日本古典文学を世界にひらく Eajs(ヨーロッパ日本研究協会)で発表しよう

横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー〈編〉

ヨーロッパにおける日本学は長い伝統を有しており、
ハイレベルかつバラエティに富んだ視角は、世界規模での学的影響を与え続けている。
そのヨーロッパ日本学の最先端を伝える研究集会が、
1973年設立されたEajs(ヨーロッパ日本研究協会)による国際会議である。
本書では2021年に開催された同集会における日本古典文学を考えるための
新視点を提示する充実のパネル4点を収載。
日本古典文学を世界にひらいていく研究視角、方法論の
パイロットケースを提示、Eajsの歩みや参加のためのhow toも示し、
これからの日本研究・日本学の未来を構築するための手引きとなる貴重な一書。

【もくじ】

はしがき

Eajs大会の開催都市一覧(1973～2021)

第一部 『源氏物語』のパトロン・藤原道長と紫式部の〈戦略〉

テーマコンセプト●横溝博

『源氏物語』の勝利——「総合」巻における主家賛美の方法と紫式部●横溝博
「源氏」の物語という〈企て〉

——藤原道長と紫式部と「作り手」の人々●中西智子

藤原道長の影の元で——『紫式部日記』における摂関政治の方法と
中宮サロンの営みの意義●ネグリ・カロリーナ

第二部 〈平安文学〉の歴史的構成——再発掘される「既成事実」

テーマコンセプト●ノット・ジェフリー

『枕草子』本文の受容と変容——諸本間の本文異同と「女」「女房」「乳母」を
めぐる記述の差異から●山中悠希

中世源氏学の心理的転換——宗祇流の性格を求めて●ノット・ジェフリー
「つくりものがたり」の位相●小川陽子

第三部 写本研究の未来——マテリアリティー、

テキストマイニング、データ基盤の構築

テーマコンセプト●海野圭介

書誌学的本文研究の未来

——「定家手沢本源氏物語」を事例として●佐々木孝浩

変体仮名を用いて写本の書写者と書写年代に迫る

——その方法と事例●齊藤鉄也

大規模画像蓄積からデータ駆動型の研究へ——Eajs 2021における特別企画
The future possibilities of DH in Japanese Studiesの報告から●海野圭介

第四部 文化資本の所有者

——近世の武士社会における教養人の交換と使用について

テーマコンセプト●クレメンツ・レベッカ

豊臣秀吉と『源氏物語』●新美哲彦

柳沢吉保の文化資本としての女性たち●ローリー・ゲイ

異言語を話す——日本の大名や禅僧における唐話の意味、一六六一～一七一
●クレメンツ・レベッカ

Eajs(ヨーロッパ日本研究協会)の過去と現在——過去三十年間の大会を振
返りながら●フトソン・マイケル／緑川真知子

【参考資料】Eajs 2021 Abstracts

あとがき●横溝博

【編者紹介】

横溝博(よこみぞ・ひろし)

1971年生まれ。博士(文学)。東北大学大学院教授。専門は中古・中世物語文学。

クレメンツ・レベッカ(Rebekah CLEMENTS)

1979年生まれ。博士(ケンブリッジ大学)。ICREA Professor, Department of
Translation, Interpreting and East Asian Studies, Autonomous University
of Barcelona. 専門は日本史・日本文学史。

ノット・ジェフリー(Jeffrey KNOTT)

1980年生まれ。博士(スタンフォード大学)。国文学研究資料館助教。
専門は室町後期～戦国期の古典学。

書 名	部 数
日本古典文学を世界にひらく Eajs(ヨーロッパ日本研究協会)で発表しよう 横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー〈編〉	定価4,950円(本体価格4,500円) A5判・並製カバー装・368頁 2022年12月刊行 ISBN 978-4-585-39014-5 C1090
ご送付先ご住所(通信欄)	部

渾沌と革新の

明治文化

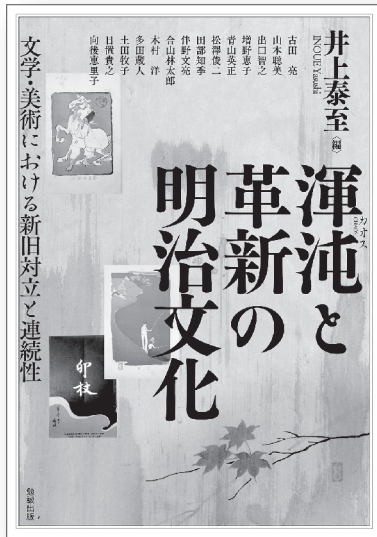
アジア遊学
285

文学・美術における

新旧対立と連続性

井上泰至 [編]

明治期の近代化の波は、
旧来の和歌・俳句・漢詩・演劇・美術など
文芸に関する諸ジャンルにも及んだ。
これら諸ジャンルは、小説を中心とする
新しいメディアや技法の展開とも関わりつつ、
相互に絡み合い、新たな時代における「あるべき姿」を
それぞれに模索していった。
「旧きもの」と「新しきもの」の相克と
渾沌から見える「可能性」とは何か——
「カオス」そのものに文化の「所在」を見える
新たな視点を提示する。



定価 3,080 円(本体 2,800 円)

A5判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-32531-4 C1391
2023年7月刊行

目次

序にかえて——高山れおな氏『尾崎紅葉の百句』に思う◎井上泰至

1 絵画

明治絵画における新旧の問題◎古田亮

秋声会雑誌『卯杖』と日本画・江戸考証◎井上泰至

好古と美術史学——聖衆来迎寺蔵『六道絵』研究の近代◎山本聡美

挿絵から見る『都の花』の問題

——草創期の絵入り文芸誌として◎出口智之

【コラム】目黒雅叙園に見る近代日本画の「新旧」◎増野恵子

2 和歌・俳句

【書評】青山英正『幕末明治の社会変容と詩歌』合評会記◎青山英正

子規旧派攻撃前後——鍋島直大・佐佐木信綱を中心に◎井上泰至

「折衷」考——落合直文のつなぐ思考と実践◎松澤俊二

新派俳句の起源——正岡子規の位置づけをめぐって◎田部知季

【コラム】旧派「俳諧」と教化◎伴野文亮

3 小説

仇討ち譚としての高橋お伝の物語

——ジャンル横断的な視点から◎合山林太郎

深刻の季節——観念小説『金色夜叉』◎国木田独歩◎木村洋

名文の影——国木田独歩と文例集の時代◎多田蔵人

4 戦争とメディア

【コラム】川上演劇における音楽演出

——明治二十年代の作品をめぐって◎土田牧子

【書評】日置貴之編『明治期戦争劇集成』合評会◎日置貴之

絵筆とカメラと機関銃

——日露戦争における絵画とその変容◎向後恵里子

編者プロフィール

井上泰至 (いのうえ・やすし)

防衛大学校教授。専門は日本近世文学。主な著書に『近世刊行軍書論』(笠間書院、二〇一四年)、『近世日本の歴史叙述と対意識』(編著、勉誠出版、二〇一六年)、『関ヶ原はいかに語られたか』(編著、勉誠出版、二〇一七年)、『関ヶ原合戦を読む——慶長軍記 翻刻・解説』(勉誠出版、二〇一八年) などがある。

書名	部数
渾沌と革新の明治文化 [アジア遊学 285] 文学・美術における新旧対立と連続性 井上泰至 [編]	部
ご注文先ご住所・氏名 (通信欄)	

近世後期江戸小説論攷

山本和明〈著〉

「考証」の力、「文（ふみ）」の力

近世後期、版本・写本による書物流通は一層の広がりをもせ、多種多様な知識が創作・出版の場にも流れ込んでいった。

作者が作品を構築する際に、如何にその典拠を選びとり、構想したのか。

古語や古い文体に対する豊富な知見を、

どのように作品と言う形に結実させていったのか。

挿絵と文との連環関係は如何に発展的に展開されたのか。

山東京伝、石川雅望の作品を軸に、作品の背後にある知的空間、

そして、それらを縦横無尽に駆使していった作者たちの営みを、

作品そのものの、そして、関連する資料から炙りだす。

従来の典拠研究、様式研究とは一線を画す、

新たな文学研究の方法を示す画期的な一書。

定価 一一、〇〇〇円(税込)

本体一〇、〇〇〇円(+税)

A5判・上製カバー装・四七二頁

二〇二三年二月刊行

ISBN978-4-585-39022-0 C3095

著者プロフィール

山本和明

(やまもと・かずあき)

一九六二年生まれ。国文学研究資料館教授。専門は一九世紀日本文学。著書に『近世戯作の〈近代〉』(勉誠出版、二〇一九年)、論文に「邦光社黎明期に関する基礎的研究——附・邦光社歌会記」(『国文学研究資料館紀要文学研究篇』四二号、二〇一六年)、「書物流通の幕末・明治」(『書物学』第9巻、勉誠出版、二〇一六年)、「千蔭と妙法院宮」(飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』勉誠出版、二〇一八年)などがある。

目次

はじめに——読むための雑感

第一部 京伝作品攷

- 第一章 京伝洒落本の写実
- 第二章 改名という作為——『昔話稲妻表紙』論
- 第三章 京伝と牧之——『優曇華物語』論
- 第四章 『安積沼』と芭蕉の旅路
- 第五章 『曙草紙』を読み解く
- 第六章 『浮牡丹全伝』と付合的発想
- 第七章 『梅花水翠』の構想
- 第八章 版面からわかること

第二部 和学・和文小説攷

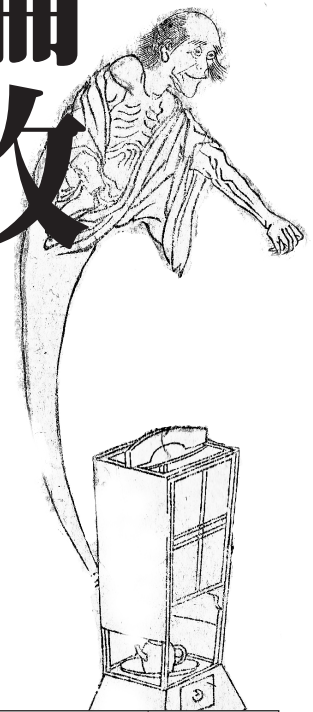
- 第一章 京伝・雅望と和学
- 附論 考証と戯作
- 第二章 古典再生——『飛騨匠物語』
- 第三章 『近江県物語』の視座
- 第四章 『天羽衣』考
- 第五章 『梅かえ物語』私論

第三部 後期小説の周縁

- 第一章 諸国奇談集の一側面
- 附論 一九世紀の旅路
- 第二章 へ七重八重花は咲けども 太田道灌雄飛録論
- 第三章 叱られし人々——妙々奇談の成立
- 第四章 惨事と戯作
- おわりに——フミ読む見巧者

あとがき

索引



書名	部数
近世後期江戸小説論攷	
山本和明〈著〉	
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 11,000円(本体価格10,000円)

A5判・上製カバー装・472頁

2023年2月刊行

ISBN978-4-585-39022-0 C3095

部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

日本近世中期 上方学芸史研究 漢籍の読書

稲田篤信〈著〉

読書記録が伝える近世の知の展開

近世中期、上方学芸の隆盛の背景には、豊富に舶載受容された明清漢籍の存在があった。儒学はもとより医学、書学、そして国学(和学)においても、漢学の日本文化に与えた影響は大きく、それは大名家、富裕層、さらには新興の個人蔵書家の蔵書や漢籍の要文を書き抜き、手控えとした抄記などにまざまざと表れている。都賀庭鐘『過目抄』、奥田尚斎『拙古堂日纂』などの漢籍抄録、漢籍・和刻本における書入など、諸種の読書記録を詳細に分析。さらには文学・書画・医学など多方面に大きな影響を与えた『世説新語補』の受容の諸相を把握することで、漢籍受容の諸相を鑑に近世中期日本の特質を明らかにする画期的著作。

【目次】

はじめに
凡例

第一部

- 第一章 上方の学芸と明清漢籍
- 第二章 『拙古堂日纂』における明清書字書
- 第三章 上方における儒者の身分と職分
- 第四章 和刻本『世説新語補』の書入三種
- 第五章 上方における世説風の展開

第二部

- 第六章 都賀庭鐘『過目抄』考
- 第七章 上田秋成『山褰(やまつと)』考
- 第八章 上田秋成の日本古典学と中国学
- 第九章 上田秋成の『論語』観
- 第十章 中井履軒『世説新語補』雕題本考
- 第十一章 本居宣長の漢籍批判
- 第十二章 平賀中南著作考

付録

- 付録1 『拙古堂日纂』・『拙古堂雜抄』の抄出書目並びに注記
- 付録2 『蜀素帖』(米南宮自書詩卷真蹟)題跋一覧
- 付録3 佐野市郷土博物館須永文庫本「米南宮自書詩卷真蹟」書影

後記
謝辞

中文摘要

【執筆者紹介】

稲田篤信(いなだ あつひぶ)

東京都立大学(首都大学東京)名誉教授・元「松学舎大学特別招聘教授」。

専門は日本近世文学。

著書に『江戸小説の世界——秋成と雅望(べりかん社)一九九九年』、『名分と命祿——上田秋成と同時代の人々(べりかん社)二〇〇六年』、『沢井常四郎「経学者平賀晋明先生」』(研文出版二〇〇七年、復刻版、解題)などがある。



定価 9,900 円(税込)
本体 9,000 円

A5判・上製カバー装・384頁
ISBN 978-4-585-39013-8 C3095
2022年11月刊行

書名	部数
日本近世中期上方学芸史研究 漢籍の読書 稲田篤信〈著〉	
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価9,900円(本体価格9,000円)

A5判・上製カバー装・384頁
2022年11月刊行
ISBN978-4-585-39013-8 C3095

部

勉誠出版

※万一のご返本の際は、青木了解で受付いたします。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

日本人の読書

古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を読み、どのように学んできたのか――

古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島経由で伝えられた漢籍（漢語で書かれた書物）は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。

中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問——漢学——は、国家の制度のなかにも位置付けられ、

それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、

古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から

古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』○『文選集注』巻七断簡○『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡○『論語』清原業賢書写・加点半

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加点半

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡○『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生（さとう・みちお）

一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期日本漢文学の研究』（笠間書院、二〇〇三年）、『三河鳳来寺旧蔵唐暦二年書写和漢朗詠集影印と研究』（勉誠出版、二〇一四年）、「句題詩論考——王朝漢詩とは何ぞや」（勉誠出版、二〇一六年）、「玉葉」に見られる課試制度関連記事の検討」（『変革期の社会と九条兼実——「玉葉」をひらく』勉誠出版、二〇一八年）などがある。

目次

カラー口絵

◎本 篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本——唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世 漢文訓読史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活——『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事——藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

——天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍

——『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書

——慶應義塾図書館蔵『七書直解』等の紹介を兼ねて

第十四章 『佐保切』追跡

——大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕——呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本

——『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附 篇

第十八章 『朝野群載』巻十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩

第二十章 『本朝麗藻』所収の積算詩——句題詩の変型として

第二十一章 藤原有国伝の再検討

第二十二章 大江匡房と藤原基俊

第二十三章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十四章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十五章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の
図版収録点数
総50超!

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装・
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

書 名	部 数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	部
ご送付先住所・氏名（通信欄）	

藤本幸夫〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞・恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡 鑑研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐ 本の文化史

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、
全国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の
深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。
書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、
即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・
本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・
禁書・和刻・出版統制等々を中心に、
書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、
390点を超える図版資料を収載した

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

執筆者一覧

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤圭子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉明彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

定価 一七、六〇〇円（税込）
（本体 一六、〇〇〇円）
B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-30002-1 C3000

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書 名		部 数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	定価 17,600円・本体16,000円	部
	B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000	
藤本幸夫 〔編〕		
ご送付先ご住所（通信欄）		

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文

藤本幸夫

第一部 書物のかたち・書物のジャンル

佐々木孝浩	〈古写本〉	日本の写本——装訂を中心として
柏崎順子	〈江戸版〉	初期出版界の様相
木村八重子	〈草双紙〉	「草双紙」の史的展望
棚橋正博	〈黄表紙〉	黄表紙
佐藤至子	〈合巻〉	合巻における自主規制 ——『三国太郎再来伝』から『現世扶桑太郎』へ
鈴木圭一	〈中本（人情本）〉	中本二編三冊意識
石上阿希	〈春画・艶本〉	「書籍目録」にみる枕絵と好色本
大久保純一	〈錦絵〉	錦絵とは
湯浅淑子	〈おもちゃ絵〉	江戸のおもちゃ絵
鈴木俊幸	〈草紙類〉	上方の草紙類をめぐる
万波寿子	〈仏書〉	日本の仏書
鈴木達彦	〈医書〉	日本漢方の特徴と日本医書

第二部 印刷・活字・技術

住吉朋彦	〈宋版・元版〉	宋元版研究の道程
堀川貴司	〈五山版〉	五山版をどう考えるか
長澤孝三	〈和刻本〉	「和刻本」について
豊島正之	〈キリシタン版〉	キリシタン文獻
林進	〈古活字版〉	角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
高木浩明	〈古活字版〉	古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
森上修	〈古活字版〉	古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
小秋元段	〈出版史料としての反古〉	東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
渡辺守邦	〈出版史料としての反古〉	表紙裏反古・再考
橋口侯之介	〈彫りと摺り〉	彫師・摺師から見た日本の出版形態
永井一彰	〈版木〉	板木の節

第三部 本屋・商業出版・蔵書

鈴木俊幸	〈日本近世の本屋〉	本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
塩村耕	〈日本近世前期の商業出版〉	近世前期の出版界と西鶴
長友千代治	〈貸本屋〉	貸本屋の横顔
岡村敬二	〈蔵書・蒐書（日本）〉	蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
大沼晴暉	〈蔵書・蒐書（日本）〉	田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
大沼晴暉	〈日中韓の商業出版〉	日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
大木康	〈中国の商業出版〉	中国書肆史考——近世を中心に
大塚秀高	〈中国の商業出版〉	坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
金文京	〈中国の商業出版〉	明代建陽の商業出版と通俗小説
上原究一	〈中国の商業出版〉	明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
高橋智	〈蔵書・蒐書（中国）〉	中国の蔵書家について
藤本幸夫	〈朝鮮の商業出版〉	朝鮮坊刻本攷
李胤錫	〈朝鮮の商業出版〉	朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
全相昱	〈朝鮮の商業出版〉	坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき 藤本幸夫
執筆者 覧

江戸時代の貸本屋

庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点

長友千代治〔著〕

江戸時代には書物を読むことのできる人びとが庶民にまで広がった。

その読書熱を支えた書物流通の拠点が貸本屋である。

読者の興味をそそり、見たことのない世界や

名所旧跡へ連れ出す書物、

隠された秘密や真相を解き明かす書物、

便利性に満ちた生活実用書――

これらをすぐに調えて手元に届けるのが貸本屋であった。

また、読書熱の高まり、

さまざまなジャンルにわたる出版文化の広がり、

近世における創作の場においても、大きな影響を与えた。

特にその浩瀚な知識を自らの作品に注ぎ込んできた

近世を代表する作家・曲亭馬琴の日記には、

近世知識人と書物の関係をまざまざと伝える、

特筆すべき内容がふんだんに含まれている。

長年にわたり諸資料を博搜してきた筆者が、

江戸時代の貸本屋の展開、そして、書物と人びととの

かかわりの諸相を描き出す書籍文化史論。

まえがき

第一部 本のある風景

第二部 近世貸本屋の展開

一 貸本屋研究の意義 ●二 四民の読書熱 ●三 貸本屋の仕事

四 法制と貸本屋 ●五 作者・板元・貸本屋

六 読物流行の変遷と貸本屋 ●七 貸本屋と読者 ●まとめ

第三部 馬琴の書物探索と貸本領域

一 馬琴の書物愛 ●二 知識人との書物貸借

三 馬琴作品の愛読者たち ●四 馬琴と貸本屋

五 馬琴の本屋探書 ●六 馬琴の写本製作

七 馬琴の潤筆料と生活 ●八 愛蔵書の売却

九 馬琴の疾病 ●十 わが庭は花盛りなれど…… ●まとめ

あとがき

著者プロフィール

長友千代治（ながとも ちよじ）

昭和十一年生まれ。大阪府立図書館司書、愛知県立大学・京都府立大学・佛教大学教授を歴任。著書に、『近世貸本屋の研究』（昭和五十七年）、『近世上方作家・書肆研究』（平成六年）、『江戸時代の書物と読書』（平成十三年。以上東京堂出版）、『江戸時代の図書流通』（思文閣出版、平成十四年）、『江戸庶民の読書と学び』（勉誠出版、平成十九年）、『江戸庶民のまじない集覧』（勉誠出版、令和二年）など。編書に『江戸時代生活文化事典』（勉誠出版、平成二十年）など。



定価 五、五〇〇円（税込）（本体価格五、〇〇〇円）
A5判・上製カバー装・三三六頁・二〇二三年五月刊行
ISBN978-4-585-39029-9 C3095

書名	部数
江戸時代の貸本屋 庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点 長友千代治〔著〕	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

定価5,500円（本体価格5,000円）
A5判・上製カバー装・336頁
2023年5月刊行
ISBN978-4-585-39029-9 C3095

江戸庶民の 読書と学び

教養熱は江戸時代にもあった！

長友千代治〔著〕

出版文化が花開いた江戸時代、さまざまな知識が書物によって伝播していく中で、人びとのなかに「学び」への熱が高まっていた。彼ら・彼女らはどのような知識を求め、

どのような体系のなかで知を自家薬籠中のものとしていったのか。そして、それを担う書物はどのように読者の手に伝えられたのか。

当時のベストセラーである啓蒙書や教養書、そして、版元貸本屋の記録など、人びとの読書と学びの痕跡を残す諸資料の博搜により、日本近世における教養形成・書物流通の実情を描き出す。

もくじ

はしがき

第一章 近世初頭の書物と読書瞥見

書物の探索と入手／書物書写と慶長写本／印刷本／書物の譲渡・融通・本売／虫私と目録／読書始・進講・講釈・会読

第二章 近世における出版と読書

寛永期の整版本出版／元禄期三世代目の出版／享保期より四世代目以降の出版／四民の学習

第三章 近世庶民の学問とは何か

はじめに／学習・学問の普及／学習・学問をする理由は何か／学習・学問の究極の目標は何か／原則的な教科課程／庶民の自学自習の教科課程／教材は出版本屋の製作本／学習の成果は／裏返しの茶化し

第四章 江戸初心者勉強

学門入學吉日／学文十徳／手習教訓書／算方教訓書／入学文章／京学／七夕の文事／小児・娘子の教育／早学問／算は渡世の第一／相手尊重の教え／手習子風情／一代の絵論

第五章 日常生活の中の文事

手習い子／読書を楽しむ／文字を書く知恵／墨筆・硯紙／経師屋・寄書絵・子・書林物之本屋・唐本屋・浄瑠璃草紙屋・板木屋／生活の中の本

第六章 江戸美人の読書

読書は知的美人の象徴／遊女の読書／知識を身に付け楽しむ読書／町娘の読書／人気作者の本の読書

第七章 再説・浄瑠璃本の需要と供給

町浄瑠璃の繁昌／稽古本のはじめ／正本の性格／浄瑠璃本屋／五行・六行本／浄瑠璃本の見料

第八章 食事作法

食礼／『諸礼筆記』の飲食記事／食事作法図

第九章 貸本屋略史

商業本屋の開始／行商本屋／貸物屋・貸本屋

第十章 名古屋の貸本屋大惣

名古屋の本屋と大惣の位置／大惣略年表／大惣の文壇・利用者／近代の大惣本研究／現在の大惣研究／終わりに

あとがきに代えて

―『浄土宗回向文和訓図会』―

初出一覧

索引



（ながとも・ちよじ）昭和十一年宮崎市生まれ。三十五年佐賀大学卒業。四十五年大阪市立大学大学院博士課程修了。大阪府立図書館司書、愛知県立大学・京都府立大学・佛教大学教授を歴任。著書に、『近世貸本屋の研究』（昭和五十七年）、『近世上方作家・書肆研究』（平成六年）、『近世上方浄瑠璃本の研究』（平成十一年）、『江戸時代の書物と読書』（平成十三年）以上東京堂出版、『江戸時代の図書流通』（思文閣出版、平成十四年）など。編書に、『重宝記資料集成』（全四十五巻別巻総索引）（臨川書店、平成十六（二）十一年）など。

本体 4,800 円（+税）

A5判上製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-22193-7 C3021
2017年10月刊行

書名	部数
江戸庶民の読書と学び	本体4,800円（+税） A5判上製カバー装・352頁 2017年10月刊行 ISBN978-4-585-22193-7 C3021
長友千代治〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

江戸庶民の まじない集覧

創意工夫による生き方の智慧

長友千代治 [著]

疫病、災害、男女関係、不妊、
子育て、疾病、寿命…

生活のなかで直面するさまざまな悩みや障害に、
江戸時代の人々は「まじない」により対処してきた。
それらは、生き方を積極的に探し求めて
考え出された智慧であり、

また、いまを生きる我々にも

貴重な示唆を与えてくれる源泉でもある。

江戸時代に出版・書写された資料を博搜、
効能別に分類し、

二四〇点以上の図版とともに紹介する

「まじない」百科事典！

【著者プロフィール】

長友千代治 (ながとも ちよじ)

昭和十一年宮崎市生まれ。三十五年佐賀大学卒業、四十五年大阪市立大学大学院博士課程
修了。大阪府立図書館司書、愛知県立大学・京都府立大学・佛教大学教授を歴任。

著書に、『近世貸本屋の研究』(昭和五十七年)、『近世上方作家・書肆研究』(平成六年)、『近
世上方浄瑠璃本の研究』(平成十一年)、『江戸時代の書物と読書』(平成十三年。以上東京堂
出版)、『江戸時代の図書流通』(思文閣出版、平成十四年)、『江戸庶民の読書と学び』(勉誠
出版、平成二十九年)など。編書に、『重宝記資料集成』全四十五巻別巻総索引(臨川書店、平
成十六・二十一年)、『江戸時代生活文化事典』(平成三十年)など。



【目次】

①「まじない」と「のろい」と

②呪縛と祈り、そして養生

③呪い総覧

④食物の呪い

⑤地震・雷・火事・親父

⑥人間関係の呪い

⑦日常生活の呪い

⑧旅行の呪い

⑨犬・猫・鼠・土竜・鼬・鶏・家鴨・鳥・烏・鳶・時鳥・

馬・牛・狐・狸・邪鬼・霊気の呪い

⑩虫・毒虫・蚤・虱・蠅・蚊・蜂・虻・油虫・蜘蛛・

百足・蛇・蝮の呪い

⑪療治の呪い

⑫内科の呪い

⑬外科の呪い

⑭婦人科の呪い

⑮小児科の呪い

主要依拠資料・索引

図版点数
240点超!



書 名	部 数
江戸庶民のまじない集覧 一 創意工夫による生き方の智慧 長友千代治 [著]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体6,000円(+税)

A5 判上製カバー装・392 頁
ISBN 978-4-585-20076-5・C1000
2020 年 10 月刊行

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

江戸時代生活文化事典

—重宝記が伝える江戸の智恵—

学び・教養・文字・算数・農・工・商・礼法・服飾・俗信・年暦・医方・薬方・料理・食物等々、江戸時代に生きる人々の生活・思想を全面的に捉える決定版大事典。

【本書の特色】

- ▼江戸時代の日常生活全般の案内教習書であり、当時の人びとの基礎的教養を示すベストセラー「重宝記」一七〇種超の掲載記事を博搜・収集、現代語訳して五十音順に配列。
- ▼項目数約一五〇〇〇、図版のべ七〇〇点以上からなり、教養・教化、文字・算法、礼法・服飾、俗信・年暦、医方・薬方、料理・食物等、多方面に及ぶ江戸の智恵を知るための初めての生活百科事典。現代を生きる我々にも有用な生活の知識が満載。
- ▼江戸時代の語句を逐一採録し、解説を現代語訳した。他の辞書には採録されていない語句も数多く、近世の言語・思想・文学・歴史・風俗等の読解・注釈においても座右に必備の一冊。
- ▼著者の長友千代治先生は江戸文化・書誌学研究の第一人者。『重宝記資料集成』全四十五巻の編者であり、ライフワークである「重宝記」研究の一大集大成。



約一五〇〇〇項目掲載!!



長友千代治「編著」

(ながともちよじ) 昭和十一年宮崎市生まれ。大阪府立図書館司書、愛知県立大学・京都府立大学・佛教大学教授を歴任。著書に、『近世貸本屋の研究』(昭和五十七年)、『近世上方作家・書肆研究』(平成六年)、『近世上方浄瑠璃本の研究』(平成十一年)、『江戸時代の書物と読書』(平成十三年。以上東京堂出版)、『江戸時代の図書流通』(思文閣出版、平成十四年)、『江戸庶民の読書と学び』(勉誠出版、平成二十九年)など。編書に、『重宝記資料集成』全四十五巻別巻総索引(臨川書店、平成十六～二十一年)など。

書名	部数
江戸時代生活文化事典 —重宝記が伝える江戸の智恵— 長友千代治「編著」	
本体28,000円(+税) B5判上製函入 二分冊(分売不可)・1784頁 2018年3月上旬刊行 ISBN978-4-585-20062-8 C1000	
ご送付先ご住所(通信欄)	部

源氏物語の近世

本体 一一、〇〇〇円(＋税)
A5判並製・七五二頁
二〇一九年七月刊行
ISBN978-4-585-29186-2 C3095

俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典

レベッカ・クレメンツ／新美哲彦【編】

古典受容のダイナミズム

写本・版本の流通量が爆発的に増えたことで、
地方へからの情報の伝播、
さまざまな階層への知の解放が行われた近世。
それまでは貴族や大名、連歌師周辺で読み継がれていた
『源氏物語』もまた、他の和歌集や物語類とともに、
庶民に受け入れられていった。

『源氏物語』の俗語訳として最初に公刊された
都の錦『風流源氏物語』、また、その続編として編まれた、
梅翁(奥村政信)『俗解源氏物語』『若草源氏物語』『雛鶴源氏物語』
『紅白源氏物語』の全篇を翻刻・注解、挿絵も全て収載。

国内外の二級の研究者による優れた論考も併せて収載し、
俗語訳・翻案・絵入本など、さまざまな形にうつしかえられ
広く古典が受容されていくダイナミズムを
考察するための基盤を提供する。



もくじ

序
凡例

都の錦『風流源氏物語』●校訂・注：新美哲彦●翻刻：柿崎理恵子

解説●レベッカ・クレメンツ

梅翁『若草源氏物語』●校訂・注：新美哲彦●翻刻：大塚誠也

梅翁『雛鶴源氏物語』●校訂・注：新美哲彦●翻刻：平田彩奈恵

梅翁『紅白源氏物語』●校訂・注：新美哲彦●翻刻：大塚誠也

梅翁『俗解源氏物語』●校訂・注：新美哲彦●翻刻：伊永好見

解説●レベッカ・クレメンツ

論考

江戸時代における「俗語訳」の意義●レベッカ・クレメンツ
女性にふさわしくない本？

——十七世紀後半の日本における『源氏物語』と『伊勢物語』

●ビッター・コーニツキ(翻訳：幾浦裕之)

テクストの改替●マイケル・エメリック(翻訳：常田槇子)
梅翁／奥村政信『源氏物語』の挿絵とテクスト●新美哲彦

あとがき

【著者プロフィール】

Rebekah CLEMENTS(レベッカ・クレメンツ) Research Professor at Institutio Catalana de Recerca i Estudis Avançats (ICREA) and Universitat Autònoma de Barcelona. 研究教授(カタロニア高度研究施設 兼バルセロナ自治大学)。専門は東アジアの近世史。主な著書『A Cultural History of Translation in Early Modern Japan (Cambridge: Cambridge University Press, 2015)』。論文に「*あつての*」の注釈書——江戸時代における『源氏物語』の初期俗語訳の意義(陣野英則・緑川真知子編『平安文学の古注釈と受容 第三集』武蔵野書院、二〇一一年)『Speaking in Tongues? Daimyo, Zen Monks, and Spoken Chinese in Japan, 1661-1711.』(Journal of Asian Studies 76.3, 2017) などがある。

新美哲彦(にいみ・あきひこ) 早稲田大学教授。専門は日本中古文。著書に『源氏物語の受容と生成』(武蔵野書院、二〇〇八年)、論文に「定家本『源氏物語』研究の現在／今後(二)新時代への源氏学」七「複数化する源氏物語」竹林舎、二〇一五年)、「池田本『源氏物語』巻末付載『奥入』について」(天理図書館報『ビブリア』一四四号、二〇一五年) などがある。

書名	部数
源氏物語の近世 俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典 レベッカ・クレメンツ／新美哲彦【編】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

本体 12,000円(＋税)
A5判並製・752頁
2019年7月刊行
ISBN978-4-585-29186-2 C3095

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

鈴木健一 [編]

鈴木健一（すずき けんいち） 一九六〇年生まれ。学習院大学文学部教授。専門は江戸時代の文学。著書に『古典注釈入門 歴史と技法』（岩波書店、二〇一四年）、『天皇と和歌 国見と儀礼の「五〇〇年」講談社、二〇一七年）、『不忍池ものがたり 江戸から東京へ』（岩波書店、二〇一八年）など、編著に『浸透する教養 江戸の出版文化という回路』（勉誠出版、二〇一三年）、『形成される教養 十七世紀日本の〈知〉』（勉誠出版、二〇一五年）がある。

明治の教養

変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉

社会の基盤をなす「知」は、
いかに変容していったか。

幕末から明治初期、欧米列強のインパクトは、
それまでの日本の文化体系に
大きな影響を与えることとなった。
古代以来続いてきた和（日本）・漢（中国）を
ベースとした教養のあり方もまた、
時代の趨勢にあわせ変容していく…
和・漢・洋が並び立ち、
混じり合いながら形成された、
近代以降、現代まで続く教養体系の淵源を探る。

好評既刊

浸透する教養

江戸の出版文化という回路

形成される教養

十七世紀日本の〈知〉

●もくじ

はじめに…鈴木健一

序論 変容する教養——近代における〈和〉〈漢〉〈洋〉…鈴木健一

I…〈和〉が形成する基盤

尊王攘夷論と大和魂——本居宣長から吉田松陰へ…田中康二
実録から講談・歴史的読み物へ——「中山大納言物」を例に…菊池庸介
紀行「易心後語」に見る幸田露伴の教養の根柢
——古人に向きあうということ…出口智之
手習塾から小学校へ…橋本昭彦

II…〈漢〉はどこへ行くのか？

書における近代的教養——清朝書学との交差をめぐって…鍋島稲子
「文粹もの」における朱子学と陽明学の折衷…山本嘉孝
ポッケと修養——明治期『葉根譚』出版の後景…磯部敦
徳富蘇峰の思想と文体——『国民之友』創刊前後…木村洋

III…〈洋〉がもたらすもの

日本語と西洋との邂逅…山東功
新たな「智」の形成——福澤諭吉と慶應義塾…西澤直子
岩倉使節団における文化比較と翻訳
——モンテスキュー著・何礼之訳『万法精理』…多田蔵人
討論の条件——論争誌としての『明六雑誌』…菅原光
内国勸業博覧会と和・漢・洋——本草学と博覧会…國雄行
円朝と「西洋」——翻案作概観と「英国孝子伝」「黄薔薇」「蝦夷土産」の
方法について…今岡謙太郎
後記…鈴木健一

本体七五〇〇円（＋税）・二〇二〇年一月刊行

A5判上製カバー装・三六八頁

ISBN978-4-585-29193-0 C3091

書 名	部 数
明治の教養 変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉 鈴木健一 [編]	本体7,500円（＋税） A5判上製カバー装・368頁 2020年1月刊行 ISBN978-4-585-29193-0 C3091
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025